

# PLANTS & INFRASTRUCTURE SYSTEMS

## プラント・インフラ

### その他

1,294億円

#### 主要な製品とサービス

- ・(商船)客船・フェリー、一般商船、特殊船、造船エンジニアリング等
- ・(環境設備)大気汚染防止装置、廃棄物処理装置、熱回収装置、汚泥処理装置等
- ・(CO<sub>2</sub>回収)CO<sub>2</sub>回収プラント等

### エンジニアリング

1,340億円

#### 主要な製品とサービス

- ・交通システム
- ・化学プラント等

### 製鉄機械

3,694億円

#### 主要な製品とサービス

- ・製鉄設備
- ・製鋼設備
- ・鑄造設備
- ・圧延設備
- ・プロセス設備等



### 機械システム

1,624億円

#### 主要な製品とサービス

- ・ITS・パーキングシステム
- ・機械装置・特殊試験装置等
- ・食品包装機械・紙工機械等

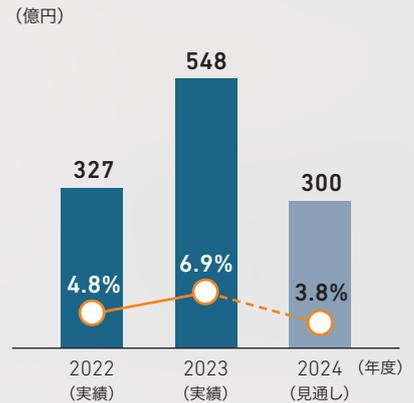
### 受注高



### 売上収益



### 事業利益/利益率



※2024年度(見通し)については、2024年4月1日のGXセグメント新設等の組織再編に伴う報告セグメント間の組み換えを反映した数値を記載しています。

## 2023年度の概況

米国・アジアを中心とした移動需要の増加等により全自動無人運転車両システム市場が好調なエンジニアリングが増加したことなどにより、連結受注高は、前年度を上回る8,673億円となりました。

売上収益は、製鉄機械やエンジニアリングが増加したことなどにより、前年度を上回る7,952億円となりました。事業利益は、製鉄機械やエンジニアリングが増加したことなどにより、前年度を上回る548億円となりました。



マニラ都市鉄道3号線



電磁鋼板生産設備

## 事業環境と中長期の重点戦略

カーボンニュートラル社会に向けた取り組みや、DX推進による製品およびサービスの効率化・自動化・省人化のニーズの高まりを受け、環境課題と社会ニーズに応えるべく、多様な製品の開発と事業展開に取り組んでいます。

製鉄機械は、先行する欧米に加え、中東・アジアにおいてもグリーンスチール投資の拡大が見込まれます。水素による直接還元製鉄プロセスなどの差別化技術開発により、幅広い客先ニーズに応える製品ラインアップの拡充を進めます。

機械システムは、自動車の自動運転支援で必要となる各種インフラ設備および自動運転車の開発を支援する統合試験設備に取り組むモビリティ・試験装置分野、ならびにDXを活用して省人化・自動化・アフターサービス拡大に取り組む産業ソリューション分野で事業拡大を目指します。

エンジニアリングは、交通システムでは需要の高まる北米・アジアを中心に新設受注、O&Mおよびサービスの強化

を図り、化学プラントでは肥料・アンモニア等の従来機種に加え、クリーン燃料・機能性化学品等への取り組みを推進します。

商船は、脱炭素に向けた環境規制強化の動きにより、LNG燃料供給装置の提供や、アンモニア燃料ハンドリングシステム、液化CO<sub>2</sub>ハンドリングシステムの開発を進めています。また、重油に代わるLNGやメタノール燃料の環境対応船の建造に取り組んでいます。環境設備は、資源循環型社会のニーズの高まりに応えるべく、ごみ焼却時に発生する蒸気を利用した高効率発電の実現に加え、ごみ焼却施設でのCCU<sup>※</sup>やメタン発酵技術などの開発に取り組んでいます。CO<sub>2</sub>回収は自社技術・製品のさらなる競争力強化と、国内外でCCUSバリューチェーン構築に向けたパートナーリングを拡大し、事業成長・拡大を図ります。

※ CCU: Carbon dioxide Capture and Utilization

### FOCUS

#### 船用アンモニアハンドリングシステム「MAmmoSS<sup>®</sup>」の市場投入に向け実証試験を推進

国際海事機関が掲げる、2050年頃までの国際海運のGHG(温室効果ガス)排出ネットゼロ達成には、旧来の化石燃料から次世代燃料への転換が不可欠です。燃焼してもCO<sub>2</sub>を排出しないアンモニアは、船舶の脱炭素燃料として期待されており、安定的なクリーンエネルギーとしての将来的な活用が見込まれています。三菱造船株式会社(三菱造船)は、このアンモニアを船内で利活用するための船用アンモニアハンドリングシステム「MAmmoSS<sup>®</sup>(Mitsubishi Ammonia Supply and Safety System)」を開発しています。三菱重工の総合研究所長崎地区に実証設備を建設し、アンモニア余剰ガスを安全に処理するための実証試験を行うなど、2025年の市場投入に向けた各種試験を推進中です。三菱造船は、「MAmmoSS<sup>®</sup>」の商品化を通じて、海運業界のカーボンニュートラルに貢献します。



MAmmoSS<sup>®</sup>モジュール(イメージ)

#### ごみ焼却工場の排ガスからのCO<sub>2</sub>回収とメタネーションへの利用実証を推進

カーボンニュートラル社会に向けて、廃棄物分野におけるごみ焼却施設の一層の脱炭素化推進が期待されています。横浜市、東京ガスグループ、三菱重工グループは、横浜市のごみ焼却工場の排ガスから当社グループが開発した装置により分離・回収したCO<sub>2</sub>を、東京ガスグループのメタネーション<sup>※1</sup>実証設備に輸送しe-methane<sup>※2</sup>を生成する、国内初となる地域連携でのCCU実証試験を行っています。本実証試験を通じ、ごみ焼却施設へのCO<sub>2</sub>回収装置の本格適用、メタネーションをはじめとするCCU技術の向上に取り組む、CO<sub>2</sub>資源循環の実現に貢献していきます。

※1 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)と水素(H<sub>2</sub>)の反応により、都市ガスの主成分となるメタンを合成する技術

※2 グリーン水素等の非化石エネルギー源を原料として製造された合成メタン



横浜市資源循環局鶴見工場に設置した小型CO<sub>2</sub>回収装置「CO<sub>2</sub>MPACT(コンパクト)」